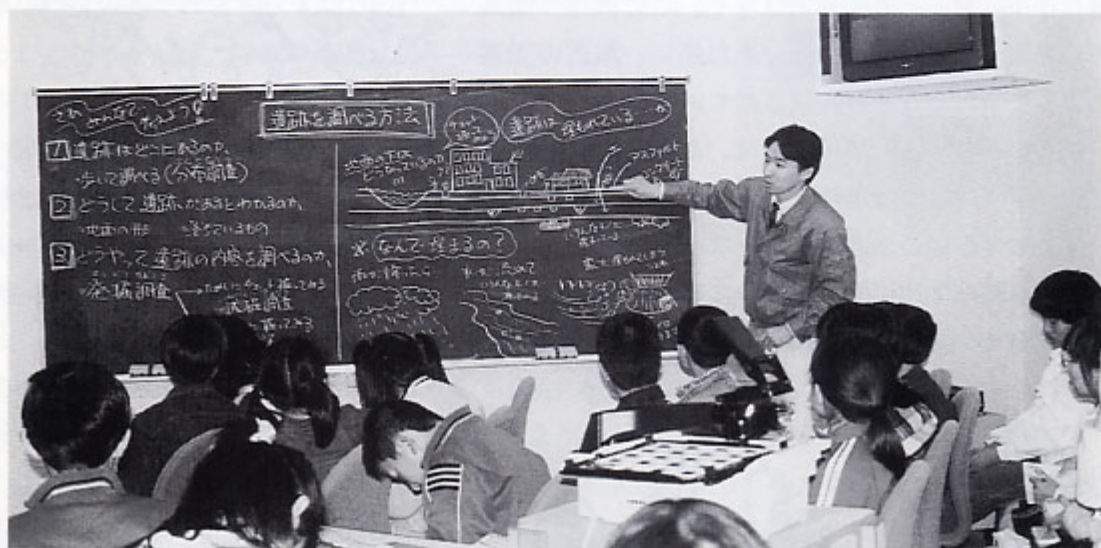


埋文センターニュース

第2号

津市埋蔵文化財センター

1995. 10. / 1



小学生の見学

これは便利！市内の埋蔵文化財が一目瞭然！

— 新版イラストマップ「昔も今も」が完成 —

平成2年の発行以来、好評をいただいていた「津の埋蔵文化財ハンディーマップ」が紙面を一新して再登場しました。各種の開発による埋蔵文化財の破壊は津市においても例外ではなく、ここ数年の間に多くの遺跡が消滅しました。また逆に、最近の調査によって新たな遺跡も発見されています。



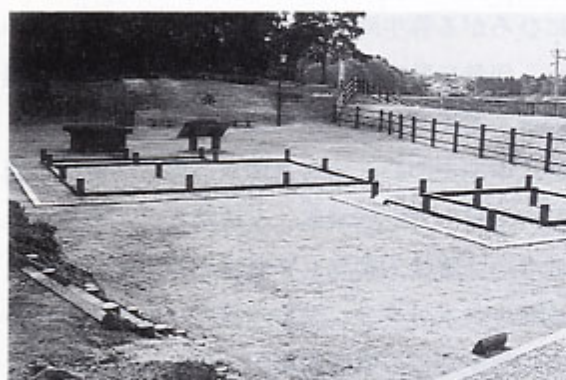
新しいハンディーマップには、これら最新の情報を盛り込んでいます。また、主な遺跡は拡大マップで、主な遺物はリアルなオリジナルイラストで紹介しているほか、発掘調査についてのやさしいQ&Aコーナーなど、盛り沢山の内容です。さあ、あなたもこのハンディーマップを持って津の歴史にじかに触れてみませんか？——このハンディーマップは津市埋蔵文化財センターと津市教育委員会文化課（津市役所7F）で無料でお頒けしています。



紙面を一新したハンディーマップ



上津部田城址公園 ふるさと 手づくり郷土賞「歴史・文化部門」に認定される



「埋文センターニュース」創刊号でご紹介した上津部田城址公園が、このたび平成7年度『手づくり郷土賞』の「歴史文化部門」に認定されました。

この賞は、さまざまな創意工夫により地域の個性や魅力を創出している各種の社会資本を選定し、これを広く紹介することによってゆとりとうるおいのある個性豊かな地域づくりを支援しようとするもので、昭和61年度から建設省が毎年実施しています。三重県内では平成6年度までに東海道の関宿の町並み（関町）や七里の渡跡（桑名市）など14か所がこの賞に認定されています。認定証の伝達式は7月12日に名古屋市内で行われ、荒木教育長と米山学芸員が出席しました。

こんな仕事をしています ～業務内容紹介《その2》～



この4月から文化課長兼埋蔵文化財センター所長。といっても学芸員諸君にほとんどまかせっきり。時間を見つけて土器接合等の研修もしたいと思っています。（松浦）



はじめまして。私は土器洗い・接合・注記の仕事をして4年目になりますが、まだまだ未熟な私です（カワイク）。土器も私と出会って喜んでいることでしょう。（平井）



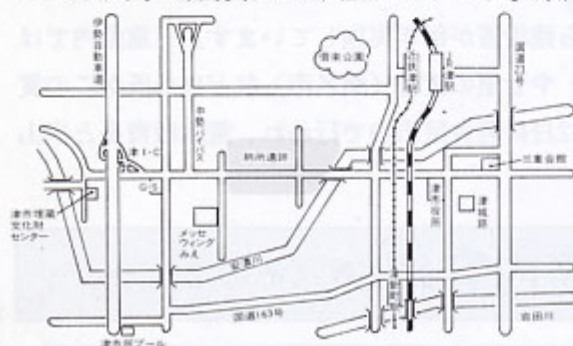
私は主婦歴13年、毎日掃除と洗濯に追われ家の中はピカピカでした。しかし今は埋文センターがピカピカ…私は毎日土器とにらめっこ。完成するととても愛しいです。（滝本）

遺跡紹介

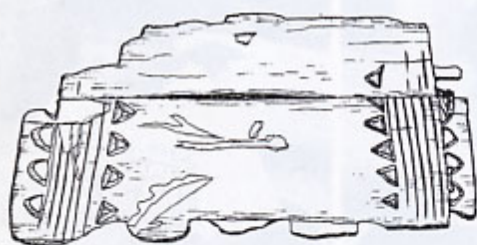
《納所遺跡》

納所遺跡は、市内を流れる安濃川中下流域にひろがる弥生時代前期から古墳時代中期にかけての大複合遺跡です。場所は、市内中心部から伊勢自動車道津 I、C にむかう道路が安濃川に架かる安東大橋を越えた、最初の交差点付近と考えていただければいいでしょう。

昭和48年に行なわれた発掘調査では、弥生時代中期を中心とする遺構や、^{おびただ}夥しい量の土器や石器、木製品が出土しました。遺構では、^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居や^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓、^{どこうぼ}土坑墓などが確認されました。遺物では、全国的にみてもあまり例のない「琴状木製品」や農耕の様子がうかがえる木製農具、^{うろし}漆の施された^{くし}櫛などが、空気と遮断され水分を多く含む土壌にパックされたかたちの良好な保存状態で出土しています。県内の弥生時代の拠点集落と考えられる遺跡は、



納所遺跡の位置



琴状木製品



出土した土器

大きな河川の流域に営まれます。雲出流域では三雲町の中ノ庄遺跡、鈴鹿川流域では鈴鹿市の上箕田遺跡などがよく知られており、こうした遺跡からの「分村」という形でそれ以降の集落は形成されていったと考えられています。創刊号でお伝えした^{おき}長遺跡も納所遺跡から派生した集落でしょうか。最近の発掘調査で徐々にその様子はわかってきましたが、発掘調査でわかるのは遺跡の一部にすぎません。納所遺跡の場合、そのほとんどは今も水田の下に埋もれています。周辺には幹線道路が開通し、今後この辺りの景観は大きく変わるかも知れません。

(中村)



遺跡周辺の現況

上村遺跡は、津市の中央部やや南寄りを東へ流れて伊勢湾に注ぐ、岩田川の下流域右岸の丘陵すそにある遺跡です。昭和46年と51年に発掘調査が行なわれましたが、51年の調査では弥生時代前期後半から中期前半の土器がたくさん見つかり、弥生時代の津を研究するうえでたいへん重要な遺跡であることがわかりました。写真の遺物は46年の調査で見つかったもので、「子持勾玉」と呼ばれているものです。

日本では、縄文時代から首飾りなどに「勾玉」という三日月形の玉が使われていましたが、古墳時代になると首に下げるには重すぎるくらい大きな勾玉が作られるようになりました。この大きな勾玉には、小さな勾玉がいくつも付いていて、まるで子供の玉が親の玉にくっついているように見えます。これが子持勾玉です。子持勾玉は普通の勾玉とは違って首飾りの部品などではなく、お祭りやお祈りをする時に使った特殊な道具（祭祀用具といえます）だろうと考えられていますが、詳しいことはまだわかっていません。

上村遺跡で見つかった子持勾玉には、片方の端に溝状の切り込みがあります。この切り込みを口、穴を目、小さな勾玉をひれの様に見立てると、魚の形をしているように見えます。じつは、津市埋蔵文化財センターのマスコットの「コモちゃん」は、この子持勾玉からデザインしたものなのです。みなさんかわいがってあげてくださいね。

（山口）



コモちゃんができるまで

コモちゃんのモデルは上村遺跡の子持勾玉です（上の写真）。その誕生までのプロセスを追ってみましょう。Let's Go !!!

はじめはゴツゴツしていて、いかにも石というかんじ。ヒレもあちこちカケています。



からだの線をシンプルにして、丸みをつけると少しサカナに近づきました。



目と口をかわいくして、プロポーショナルを整えれば、ハイッ、コモちゃんのできあがりです。



センター日誌抄



4月下旬に、神戸小学校の6年生約100人と片田小学校の6年生約100人がセンターを見学に訪れました。1時間半にわたって、職員から発掘調査に関する講義や遺物の説明を受けましたが、なかには石包丁や石鏝^{いしばうちょう せきぎく}を熱心にスケッチする児童の姿もみられました。

平成7年4月20日	神戸小学校遠足	約100人
4月28日	片田小学校遠足	約100人
5月17日	敬和公民館「婦人学級」	約35人
5月18日	津市埋蔵文化財パトロール委員会	約20人
5月19日	敬和公民館「婦人学級」	約35人
5月31日	松阪市教育委員会視察	5人
6月8日	片田公民館「寿大学」	約50人
6月9日	津市議会県都クラブ視察	5人
6月21日	育生小学校「家庭教育学級」	約25人
	県税事務所	約25人
6月22日	金沢市教育委員会視察	4人
	天理市教育委員会視察	1人
	片田公民館「寿大学」	約45人
7月14日	高野尾小学校「家庭教育学級」	約30人

津市埋蔵文化財センターの開館時間は、年末年始を除く平日の午前8時30分から午後5時までです。展示スペースはわずかですが、遺物の整理作業などをあわせて見学していただいています。くわしくは津市埋蔵文化財センターまでお問い合わせ下さい。

《編集後記》 センターがオープンしてほぼ1年になります。オープン当初は引越しもまだ完全に終わっていない状態でしたが、ようやく内部の整理も進み埋文センターらしくなってきました。今年度の後半にはいくつか本調査が予定されています。次号ではこれらの調査の様子をお伝えできるものと思います。

発行：1995. 10. 1
編集：津市教育委員会
津市埋蔵文化財センター
〒514 三重県津市安東町1225
TEL 0592-29-0210
FAX 0592-29-4601